

第 66 回日本救急医学会関東地方会幹事会

2016 年 2 月 6 日 (土) 12:00~13:30

会場：都市センターホテル 第1会場 (3F コスモス I)

議事録署名人の確認

新幹事推薦 (資料①)

常任幹事・監事改選について (資料②)

森村常任幹事長

森村常任幹事長

報告事項

1. 庶務報告 (資料③) 藤島常任幹事
2. 各常任幹事担当報告
 - ①看護部会 (資料④) 三宅常任幹事
 - ②救急隊員部会 (資料⑤) 松田常任幹事
 - ③SOS-KANTO 委員会 (資料⑥) 矢口常任幹事
 - ④編集委員会 (資料⑦) 田中常任幹事
 - ⑤ホームページ (資料⑧) 田中常任幹事
3. 第 66 回日本救急医学会関東地方会報告 横田会長
4. 第 67 回日本救急医学会関東地方会
準備状況報告 (資料⑨) 小野次期会長

審議事項

1. 2015 年度決算報告 (資料⑩) 藤島常任幹事
2. 2016 年度予算について (資料⑪) 藤島常任幹事
3. 名誉会員の推戴について (資料⑫) 森村常任幹事長
4. 次々期会長について 森村常任幹事長
5. 新規常設委員会について (資料⑬) 森村常任幹事長

新幹事候補者リスト					
	新幹事候補者名	所属	出身大学	卒業年	資格
1	たかはし いさお 高橋 功	総合病院 国保旭中央病院 救命救急センター	弘前大学	昭和61年	有
推薦者：なし ※北海道地方会幹事(1999年10月～)、第34回北海道救急医学会会長 入会日：平成27年8月28日					
2	なかじま すずむ 中島 勸	東京大学医学部附属病院 救命救急センター	東京大学	平成3年	有
推薦者：有賀 徹(昭和大学医学部救急医学講座)、三宅 康史(昭和大学医学部救急医学) 入会日：平成23年10月25日					
3	わけ こうじ 和氣 晃司	獨協医科大学 救急医学講座	獨協医科大学	平成5年	有
推薦者：小林 健二(済生会宇都宮病院)、小野 一之(獨協医科大学) 入会日：平成17年					
4	なかだ たかあき 中田 孝明	千葉大学医学部附属病院 救急科・集中治療科	千葉大学	平成11年	有
推薦者：織田 成人(千葉大学医学部附属病院 救急科・集中治療科)、貞広 智仁(東京女子医科大学八千代医療センター) 入会日：平成14年2月16日					
5	えびはら たかゆき 海老原 貴之	自治医科大学附属さいたま医療センター	日本大学	平成12年	有
推薦者：守谷 俊(自治医科大学附属さいたま医療センター 救急部)、櫻井 淳(日本大学病院 救急科) 入会日：平成17年					
6	さとう たかゆき 佐藤 孝幸	東京女子医科大学東医療センター 救急医療科	山口大学	平成18年	有
推薦者：磯谷 栄二(東京女子医科大学東医療センター)、須賀 弘泰(東京女子医科大学東医療センター) 入会日：平成25年1月10日					
7	しまもと しゅうじ 島本 周治	東京女子医科大学病院 救命救急センター	聖マリアンナ医科大学	平成10年	有
推薦者：矢口 有乃(東京女子医科大学救急医学)、武田 宗和(東京女子医科大学救急医学) 入会日：平成20年11月12日					
8	かとう そういちろう 加藤 聡一郎	杏林大学医学部附属病院 高度救命救急センター	聖マリアンナ医科大学	平成19年	有
推薦者：山口 芳裕(杏林大学医学部救急医学)、樽井 武彦(杏林大学医学部救急医学) 入会日：平成22年3月30日					
9	いのうえ よしあき 井上 貴昭	国立大学法人 筑波大学 医学医療系 救急医学集中治療学	筑波大学	平成5年	有
推薦者：田中 裕(順天堂大学救急・災害医学)、松田 繁(順天堂大学救急・災害医学) 入会日：平成24年2月29日					
10	たかはし ひろゆき 高橋 宏之	東京女子医科大学東医療センター 救急医療科	東京医科歯科大学	平成19年	有
推薦者：大友 康裕(東京医科歯科大学)、磯谷 栄二(東京女子医科大学東医療センター) 入会日：平成25年1月10日					
11	ほんだ ひでき 本多 英喜	横須賀市立うわまち病院 救命救急センター	自治医科大学	平成5年	有
推薦者：森村 尚登(横浜市立大学大学院医学研究科救急医学)、中村 京太(横浜市立大学医学部救急医学) 入会日：平成19年7月12日					
12	かとう あきひと 加藤 晶人	川崎市立多摩病院 救急災害医療センター	昭和大学	平成17年	有
推薦者：林 宗貴(昭和大学藤が丘病院 救急医学科)、田中 拓(川崎市立多摩病院 救急災害医療センター) 入会日：平成20年4月30日					

常任幹事・監事 立候補状況について

常任幹事立候補者

1. 河野 元嗣 (筑波メディカルセンター病院 救命救急センター)
2. 武田 宗和 (東京女子医科大学 救急医学)
3. 田中 裕 (順天堂大学医学部附属浦安病院 救急診療科)
4. 松田 潔 (日本医科大学武蔵小杉病院 救命救急センター)
5. 三宅 康史 (昭和大学医学部救急医学講座)

監事立候補者

1. 坂本 哲也 (帝京大学 医学部 救急医学講座)
2. 山口 芳裕 (杏林大学 医学部救急医学教室)

以上 五十音順・敬称略

日本救急医学会関東地方会会則施行細則 (抜粋)

第 2 章 役員の選任

第 6 条 常任幹事は、選挙によって選任される常任幹事（以下選挙常任幹事と略記）と、選挙によらないで選任される常任幹事（以下非選挙常任幹事と略記）とに区分する。

2 選挙常任幹事は 6 名、非選挙常任幹事は 2 名とする。

3 会長、次期会長は非選挙常任幹事となる。

第 7 条 監事の選任は、すべて選挙による。

(中略)

第 3 章 選挙常任幹事および監事の選任方法

第 10 条 候補者は、幹事でなければならない

(中略)

第 17 条 選挙常任幹事は、得票数がもっとも多い者から順次 6 名を当選とする。

2 監事は、得票数がもっとも多い者から順次 2 名を当選とする。

(中略)

第 18 条 常任幹事および監事に欠員が生じたときは、常任幹事長は常任幹事会の議を経て順次欠員を補充することができる。

第 4 章 常任幹事長の選任

第 19 条 常任幹事長は、常任幹事会において選挙常任幹事がこれを互選する。

第 20 条 常任幹事長の選任は、非選挙常任幹事が管理する。

(後略)

以上

2015 年度 庶務報告

(2015 年 12 月 31 日現在)

総会員数：	1183 名	(新会員 177 名)
幹事	316 名	(新幹事* ¹ 20 名)
名誉	39 名	(新名誉会員なし)
一般 (医師)	591 名	(新会員 105 名)
一般 (看護師)	199 名	(新会員 64 名)
一般 (救急救命士)	17 名	(新会員 2 名)
一般 (その他・不明)	21 名	(新会員 4 名)

*¹2015 年 2 月 7 日幹事会承認

退会者数： 171 名 (うち 143 名は会費滞納による自然退会)

名誉	0 名	
幹事	11 名	
一般 (医師)	111 名	
一般 (看護師)	43 名	
一般 (ME)	2 名	
一般 (不明)	4 名	

会員のご逝去 1 名

藤井 奈保子 先生 (ふじい なおこ) 会員 2015 年 6 月 5 日ご逝去

看護部会報告

平成 28 年 2 月 6 日

看護部会担当常任幹事 三宅 康史

1. 2015 年会議開催報告

①看護部会運営委員会 1 回開催

6 月 16 日 (火) AP 品川アネックス

※2016 年度第 1 回看護部会運営委員会 2 月 6 日 (土) 16 : 45 ~

都市センターホテル 予定

②看護部会施設代表者会 1 回開催

2 月 7 日 (土) パシフィコ横浜会議センター

2. 次期看護部会運営委員会委員について

既存の委員全員が再任を承諾、2015 年 6 月開催の看護部会運営委員会の方針に従って若干名の委員増を予定する (2016 年 2 月より 1 名増予定)。

役職	氏名(敬称略)	再任可否
委員長	佐藤 憲明	承諾
副委員長	浅香 えみ子	承諾
運営委員	木澤 晃代	承諾
運営委員	黒田 啓子	承諾
運営委員	鴫田 猛	承諾
運営委員	藤野 智子	承諾
運営委員	横田 由佳	承諾

以上

第2回関東地方メディカルコントロール協議会連絡会議

日時 : 平成28年2月6日 17:20~18:20
会場 : 都市センターホテル6階606号室
テーマ : 関東地方における処置拡大2行為の現状と課題

会議次第

議長 日本救急医学会関東地方会常任幹事長 森村 尚登
那須地区消防本部警防課副参事兼課長補佐 室越 孝

開会

挨拶 厚生労働省医政局病院前医療対策専門官 酒井 智彦
総務省消防庁救急企画室救急専門官 寺谷 俊康

- 発表
1. 関東地方における処置拡大2行為の現状アンケート調査結果報告
日本救急医学会関東地方会救急隊員部会担当常任幹事 松田 潔
 2. 東京消防庁における拡大2行為の実施状況について
東京消防庁救急部救急指導課 高橋 宣行
 3. 地域MC協議会における処置拡大講習
千葉県東部MC協議会 旭市消防本部 大橋 和善
 4. 横浜市における処置拡大2行為に関する事後検証結果と検討課題
横浜市MC協議会 古谷 良輔

討議

閉会

平成 27 年 12 月 3 日

全国消防長会関東支部
支部長 久保田真人殿

日本救急医学会関東地方会
常任幹事長 森村尚登
担当常任幹事 松田潔

関東地方メディカルコントロール協議会連絡会開催にともなう
アンケート調査ご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、来年 2 月 6 日に開催いたします第 66 回日本救急医学会関東地方会学術集会の時に関東地方メディカルコントロール協議会連絡会を開催する運びとなりました。その際の資料として関東地方 1 都 6 県の消防組織における拡大 2 行為の実施状況についてアンケート調査を行うことを企画いたしました。つきましては、各消防組織へのアンケート依頼を全国消防長会関東支部にお願い申し上げる次第です。アンケート内容は、別紙のとおりで、アンケート返送先は下記の日本救急医学会関東地方会事務局に FAX でお願いします。ご質問がございましたら事務局にお問い合わせください。提出期限は、回収後データ整理の時間を要するため、平成 28 年 1 月 15 日（金）とさせていただきます。

お手数を煩わせ恐縮ですが、なにとぞお引き受けいただきますよう、お願い申し上げます。

敬具

記

アンケート返送先・お問い合わせ先

日本救急医学会関東地方会事務局

東京都中野区中野 2-2-3 (株)へるす出版事業部内

電話番号 03-3384-8057 FAX 送信先 03-3380-8627

メールアドレス qq_kanto@herusu-shuppan.co.jp

FAX 送信先 03-3380-8627 日本救急医学会関東地方会事務局

関東メディカルコントロール (MC) 協議会連絡会アンケート

消防組織名称 _____
 所在都県名 _____
 本アンケート記載者氏名 _____ (所属 _____)
 連絡先 電話番号 _____ メールアドレス _____ @ _____

以下の質問に対する回答は、活動実績については平成27年4月1日～9月30日の半年間の数字でお答えください。認定資格者の人数については平成28年1月1日現在の数字でお答えください。処置実施例数は、消防組織所属の救急救命士が消防救急業務として実施した例に限ってお答えください。実施例は実施成功例とし、指示を受けたが実施できなかった例や実施を試みたが成功しなかった例は含まないでください。

消防組織の管轄人口 (最近の統計) _____ 人
 救急救命士数 _____ 人
 薬剤投与認定救急救命士数 (上記の内数でお願いします) _____ 人
 拡大2行為認定救急救命士数 (上記の内数でお願いします) _____ 人

心肺停止搬送事例数 _____ 例
 静脈路確保 (心肺停止) 実施例数 _____ 例
 薬剤投与実施例数 _____ 例
 器具を用いた気道確保実施例数 _____ 例
 気管挿管実施例数 _____ 例 (内エアウェイスコープ使用 _____ 例)

ショック (非心肺停止) に対する輸液例数 _____ 例
 血糖測定例数 _____ 例
 ブドウ糖液静注例数 _____ 例

問い合わせ先：日本救急医学会関東地方会事務局

東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版事業部内

電話番号 03-3384-8057 メールアドレス qq_kanto@herusu-shuppan.co.jp

第53回 救急隊員学術研究会 プログラム日程表

開催日：2016年2月12日（金） 会場：文京シビックホール

講演会場 大ホール	ポスター会場 2F ホワイエ
10:00～10:20 開会式	
10:20～11:20 教育講演1 「オリンピックを見すえた災害医療について」 司会：芳賀 敏 講師：山口 芳裕 共催：株式会社ノルメカエイシア	10:20～11:30 ポスター閲覧
11:30～12:30 一般演題（T-1-1～T-1-6） 「症例検討」 座長：京増 敏彦 助言者：松田 潔	11:30～12:30 ポスター演題（TP-1-1～TP-1-6） 「調査・研究・検証1」 座長：白鳥 悦男 助言者：増野 智彦 ポスター演題（TP-2-1～TP-2-6） 「調査・研究・検証2」 座長：三橋 啓一 助言者：小笠原智子
	12:30～13:30 ポスター閲覧
13:30～14:30 一般演題（T-2-1～T-2-6） 「調査・研究・検証」 座長：高山 好弘 助言者：小野 一之	13:30～14:30 ポスター演題（TP-3-1～TP-3-5） 「症例検討1」 座長：野崎 明 助言者：小笠原智子 ポスター演題（TP-4-1～TP-4-6） 「症例検討2」 座長：氏家真二郎 助言者：増野 智彦
14:40～15:40 教育講演2 「蘇生ガイドライン2015の概要」 司会：森田 浩行 講師：坂本 哲也 共催：旭化成ゾールメディカル株式会社	14:30～16:00 ポスター閲覧
15:50～17:20 シンポジウム 「今、そしてこれから ～救急業務の課題に対する取組状況」 司会：太田 孝 助言者：横田 裕行 演者：海東 剛正／小林 修 坂 行正／宮本 正樹 押尾 昌典／神田 裕行	
17:20～ 閉会式	

SOS-KANTO 委員会報告

平成 28 年 2 月 6 日

SOS-KANTO 担当常任幹事 矢口 有乃

1. 2015 年会議開催報告

①全体会議 1 回開催

第 1 回全体会議 2 月 7 日 (土) パシフィコ横浜

②SOS-KANTO 運営小委員会 開催せず

※2016 年度第 1 回運営小委員会会議 1 月 14 日 (木) (株)へるす出版事業部会議室

2. 参加施設数 67 施設

3. データ集積について

全症例数 17,098 例、646 例を除外、最終解析用データ 16,452 例。

4. 解析テーマ・PICO・論文 (一覧別紙参照)

2016 年 1 月 25 日現在、PICO 承認されたテーマは 39 件、発表論文は 7 本。

5. 次期研究について

2016 年度第 1 回運営小委員会会議 (1 月 14 日 (木) 開催) にて、以下が決定された。

- ① 現在の SOS-KANTO 運営小委員会は SOS-KANTO 2012 の解析・論文文化に対応するために継続する。研究、発表の状況をみながら、1～2 年後の解散を検討する。
- ② 次期 SOS-KANTO 委員会の委員長として北村 伸哉 先生 (国保直営総合病院 君津中央病院 救急・集中治療部) を推薦する。

以上

グループ	解析班	PIC0	テーマ	申請者(解析者)
1	Assessment Guidelines (G 2000 versus G2010) Group (SOS-KANTO Study 10年間の比較)	PIC01-1	総論論文:10年間の(日本の)治療ガイドラインの主要な変更項目は、一般人・医療従事者の行動を変え、予後と関連しているか?	田上隆
		PIC01-2	65歳以上の心原性院外心臓停止症例の治療と転帰。2002と2012を比べて	遠藤 広史
		PIC01-4	ガイドライン変更に伴う硫酸アトロピンの使用状況の変化	田中知恵/田上隆
		PIC02-1	アドレナリン初回投与時間と蘇生及び長期神経予後の関連について	本間 洋輔
		PIC02-3	救急隊の特定行為静脈路確保の成功不成功の検討	諸井 隆一
		PIC02-5	Response timeとTransportation timeの規定因子	鈴木 昌
		PIC02-7	病院前気道確保デバイスとの検討	本間 洋輔
		PIC02-10	病院前特定行為における高度気道確保器具の有用性	櫻井 淳
		PIC03-1	病院収容後胸骨圧迫デバイス	林田 敬
		PIC03-2	蘇生中に投与する炭酸水素ナトリウムの遅延性心停止に対する投与効果に関する検討	徳崎 広一郎
2	Pre-hospital Care Group (市民応急手当、口頭指導、消防機関救命処置、院外救急医療活動)	PIC03-4	非心原性院外心臓停止症例に対するECMOとIABPの併用効果の検討	神戸 将彦
		PIC04-1	Lactate clearance (LG)	林田 敬
		PIC04-2	心停止後症候群(PCAS)の転帰との関連因子	櫻井 淳
		PIC04-3	Hypothermia first vs. PCl first	萩原 周一
3	In-hospital Care Group (病院収容後救命処置)	PIC05-1	電気的除細動抵抗性VT/VFに対する抗不整脈薬による薬理学的効果の検討	網野 真理
		PIC05-3	電気的除細動抵抗性VT/VFにおける抗不整脈薬が長期的予後に及ぼす影響の検討	網野 真理
		PIC06-1	初期心電図がnon-shockable rhythmを呈した院外心臓停止例における波形変化と転帰	北村 伸哉
4	Post Cardiac Arrest Care Group (心停止後症候群、蘇生後集中治療)	PIC06-2	Non-shockable院外成人心臓停止来院後心拍再開例における原因と予後の関連(肺塞栓例と推定心原性例を中心として)	吉田 徹
		PIC07-1	時間・場所・気象情報に関する検討	中田 孝明
5	VF Group (VF症例全般:背景因子から治療戦略)	PIC08-1	院外心臓停止VF/VT患者の男性における血中Hb濃度の蘇生に対する影響	鈴木 昌
		PIC08-2	腎機能が心原性心停止の蘇生に与える影響	鈴木 昌
		PIC08-3	外来採取アンモニアと乳酸血中濃度による院外心臓停止患者の予後予測	徳崎 広一郎
		PIC08-4	院外心臓停止後症候群(PCAS)患者の臨床転帰に関する性差の検討	多村 知剛
		PIC08-5	普段生活と予後	島本 周治
		PIC08-6	院外心臓停止患者の臨床転帰と脳機能予後に関する救急隊接触時対光反射の有無の検討	武田 宗和
		PIC09-1	小児院外心臓停止の治療・転帰等にかかわる、最近10年間に於ける変化について	清水 直樹
		PIC09-2	小児院外心臓停止に対するGABアルゴリズムとCOG only CPRが与える影響について	清水 直樹
		PIC09-3	小児に対するTOR*ルール適応について(* termination of resuscitation)	清水 直樹
		PIC09-4	小児院外心臓停止に対する死因究明体制について	清水 直樹
6	Non-Shockable and/or Non-Cardiac Group (VF以外の症例、非心原性疾患、心原性と非心原性)	PIC09-5	小児院外心臓停止におけるnon-shockable rhythm症例の解析	萩原 佑亮
		PIC09-7	小児院外心臓停止症例における声門上デバイスの使用状況の検討	青木 一憲
		PIC09-8	小児院外心臓停止の発生場所とOPAの原因によるバイスタンダーCPR実施率	植松 悟子
		PIC09-9	小児院外心臓停止患者に対する病院前救急活動における薬剤投与(アドレナリン)に関する検討	井上 信明
		PIC09-10	小児院外心臓停止患者に対して病院前救急活動に医師を派遣する効果に関する検討	井上 信明
		PIC09-11	小児院外心臓停止の予後予測因子の検出	岡田 千晶
		PIC09-12	小児院外心臓停止に対する低体温療法 (高体温回避)実施状況の変化: SOS-KANTO2002と2012の比較	齊藤 修
		PIC09-13	小児院外心臓停止の発生場所による原因について	植松 悟子
		PIC10-1-1	我が国における院外心臓停止患者の蘇生中止基準の作成 (10-1-2へ)	明石 暁子
		7	Regional System Group (救急システム:発生場所、地域差、施設、勤務時間帯)	PIC10-1-2
PIC10-2	SOS-KANTO 2012 studyにおけるBLS TORルール、ALS TORルールの妥当性の評価			柏浦 正広
PIC10-3	蘇生施行時間による予後の比較			柏浦 正広
8	Outcome Prediction Group (予後予測、蘇生中止基準、採血データ、背景因子)	PIC01-1	院外心臓停止VF/VT患者の男性における血中Hb濃度の蘇生に対する影響	鈴木 昌
		PIC08-2	腎機能が心原性心停止の蘇生に与える影響	鈴木 昌
		PIC08-3	外来採取アンモニアと乳酸血中濃度による院外心臓停止患者の予後予測	徳崎 広一郎
		PIC08-4	院外心臓停止後症候群(PCAS)患者の臨床転帰に関する性差の検討	多村 知剛
		PIC08-5	普段生活と予後	島本 周治
		PIC08-6	院外心臓停止患者の臨床転帰と脳機能予後に関する救急隊接触時対光反射の有無の検討	武田 宗和
		PIC09-1	小児院外心臓停止の治療・転帰等にかかわる、最近10年間に於ける変化について	清水 直樹
		PIC09-2	小児院外心臓停止に対するGABアルゴリズムとCOG only CPRが与える影響について	清水 直樹
		PIC09-3	小児に対するTOR*ルール適応について(* termination of resuscitation)	清水 直樹
		PIC09-4	小児院外心臓停止に対する死因究明体制について	清水 直樹
9	Paediatric Resuscitation Study group: PReSS (小児解析全般)	PIC09-5	小児院外心臓停止におけるnon-shockable rhythm症例の解析	萩原 佑亮
		PIC09-7	小児院外心臓停止症例における声門上デバイスの使用状況の検討	青木 一憲
		PIC09-8	小児院外心臓停止の発生場所とOPAの原因によるバイスタンダーCPR実施率	植松 悟子
		PIC09-9	小児院外心臓停止患者に対する病院前救急活動における薬剤投与(アドレナリン)に関する検討	井上 信明
		PIC09-10	小児院外心臓停止患者に対して病院前救急活動に医師を派遣する効果に関する検討	井上 信明
		PIC09-11	小児院外心臓停止の予後予測因子の検出	岡田 千晶
		PIC09-12	小児院外心臓停止に対する低体温療法 (高体温回避)実施状況の変化: SOS-KANTO2002と2012の比較	齊藤 修
		PIC09-13	小児院外心臓停止の発生場所による原因について	植松 悟子
		PIC10-1-1	我が国における院外心臓停止患者の蘇生中止基準の作成 (10-1-2へ)	明石 暁子
		10	Termination of Resuscitation (TOR) Group (蘇生中止基準)	PIC10-1-2
PIC10-2	SOS-KANTO 2012 studyにおけるBLS TORルール、ALS TORルールの妥当性の評価			柏浦 正広
PIC10-3	蘇生施行時間による予後の比較			柏浦 正広

発行済

発行学会	学会誌名	掲載巻 ページ等詳細	刊行 年	ページ No.	論文タイトル	執筆者	執筆者所属機関	発表 要旨等	備考
日本救急医学会	Acute Medicine & Surgery	doi: 10.1002/ams2.102	2015	1	Changes in pre- and in-hospital management and outcomes for out-of-hospital cardiac arrest between 2002 and 2012 in Kanto, Japan: the SOS-KANTO 2012 Study.	Takashi Tagami	日本医科大学 救急医学		
	Critical Care	19:322. DOI 10.1186/s13054-015- 1028-0	2015	6	Subsequent shock deliveries are associated with increased favorable neurological outcomes in cardiac arrest patients who had initially non-shockable rhythms	Nobuya Kitamura	君津中央病院 救命救急センター		
	Resuscitation	97:76-82	2015	1	Changes in treatments and outcomes among elderly patients with out-of-hospital cardiac arrest between 2002 and 2012: A post hoc analysis of the SOS-KANTO 2002 and 2012	Hiroshi Endo	日本医科大学 救急医学		
日本救急医学会	Acute Medicine & Surgery	(2:76-82) in press	2015	6	The investigation and treatment of pulmonary embolism as a potential etiology may be important to improve post-resuscitation prognosis in non-shockable out-of-hospitalcardiopulmonary arrest - Report on an analysis of the SOS-KANTO 2012 study----	吉田 徹	聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院		
	J Cardiovasc Pharmacol	66(6):600-9	2015	5	Nifekalant Hydrochloride and Amiodarone Hydrochloride Result in Similar Improvements for 24-Hour Survival in Cardiopulmonary Arrest Patients: The SOS-KANTO 2012 Study	Mari Amino	東海大学医学部 循環器内科		
	Internal and Emergency Medicine	In press		4	Study on the priority of coronary arteriography or therapeutic hypothermia after return of spontaneous circulation in patients with out-of-hospital cardiac arrest patients with non-shockable rhythm between 2002 and 2012	萩原 周一	群馬大学 臓器病態救急学		
	Resuscitation	In press		1	Changeseinatropine use for out-of-hospital cardiac arrest patients with non-shockable rhythm between 2002 and 2012	Chie Tanaka	日本医科大学 救急医学		

本

『日本救急医学会関東地方会雑誌』第 36 卷 2 号 現状報告

2016 年 2 月 6 日
編集委員長 雅楽川 聡

1) 投稿論文数

全投稿数：80 本

〔医師部会：61 本、看護部会：13 本、救急隊員学術研究会：4 本、その他：2 本〕

	論文数	備考
2015 年学会全発表数	251 件 〔医師部会：194 件、 看護部会：38 件、救急隊員学術研究会： 19 件〕	投稿率：30.7%
辞退・未着	174 本	
2015 年発表論文投稿数	77 本 (医師部会：60 本、看護部会：13 本、 救急隊員学術研究会：4 本)	

【参考：投稿率の推移について】

	2007 年 28 卷	2008 年 29 卷	2009 年 30 卷	2010 年 31 卷	2011 年 32 卷	2012 年 33 卷	2013 年 34 卷	2014 年 35 卷
学会発表数	230	211	212	193	213	280	287	254
辞退・未着	155	116	123	101	132	182	195	184
投稿数	75	95	89	92	81	93	91	73
投稿率	32.6%	45.0%	42.0%	47.7%	38.0%	33.2%	31.5%	27.5%

2) 掲載論文数

	論文数
掲載論文数	73 本 (医師部会：58 本、看護部会：11 本、 救急隊員学術研究会：3 本、その他：1 本)
査読継続	6 本
投稿辞退	1 本
論文受理率	91.3%

3) 広告数

4 社 (広告依頼数 全 46 社)

(日本血液製剤機構, CSL ベーリング, Meiji Seika ファルマ, 真興交易 (株) 医書出版部)

4) 編集スケジュール

- 2 月 7 日～ 論文投稿受付
- 3 月 12 日 医師部会・看護部会の発表者に対し督促
- 4 月 24 日 編集委員会開催
- 6 月 3 日～ 各編集委員による投稿論文の査読
- 7 月上旬 編集委員長による投稿論文の査読
- 9 月中旬 査読結果を著者に戻し, リライトを依頼
- 10 月下旬～ 編集委員による再査読。(必要に応じて) 執筆者による再リライト
- 11 月中旬 編集委員長によるリライトされた論文の査読
- 12 月上旬～ 著者校正
- 12 月下旬 責了
- 12 月末 納品, 発送

5) 投稿規定の改定およびタイトルページの新設について

編集委員会にて、投稿規定を見直し、新たにタイトルページを設けることが決定された。常任幹事会での審議を経て承認された。

論文の審議

6) 委員会次期メンバーについて

事務局より現編集委員に次期編集委員の再任可否について確認し、以下の回答を得た。

役割	編集委員名	再任可否	備考等	
委員長	雅楽川 聡	承諾	東京女子医大退職のため	
委員	原田 知幸	辞退		
委員	池田 弘人	承諾		
委員	金井 尚之	承諾		
委員	宮内 雅人	承諾		
委員	萩原 章嘉	承諾		
委員	佐藤 陽二	承諾		
委員	山崎 元靖	承諾		
委員	上野 浩一	承諾		
委員	中村 俊介	承諾		
委員	新井 隆男	承諾		
委員	石井恵利佳	承諾		後任を確認中
委員	佐藤 憲明	退任予定/希望		
委員	藤野 智子	承諾		
委員	黒田 啓子	承認		

原田知幸
退任
承諾
承諾

以上

日本救急医学会関東地方会ホームページ報告

2016年2月6日

ホームページ担当常任幹事 田中 裕

1. ホームページ更新情報について

委託先：京葉コンピューターサービス

【2015年2月】

- ・学術集会を更新しました。(15.02.20)

【2015年6月】

- ・会則を更新しました。(15.06.03)

【2015年7月】

- ・幹事名簿、役員一覧、関連学会を更新しました。(15.07.03)
- ・各種申請書式を更新しました。(15.07.13)

【2015年8月】

- ・関連学会案内を更新しました。(15.08.04)

【2015年9月】

- ・学術集会を更新しました。(15.09.14)

【2015年10月】

- ・学術集会を更新しました。(15.10.05)

【2015年11月】

- ・関連学会案内を更新しました。(15.11.04)
- ・各種申請書式を更新しました。(15.11.05)
- ・新幹事公募のお知らせを掲載しました。役員選挙のお知らせを更新しました。各種申請書式を更新しました。(15.11.26)

以上

第 67 回日本救急医学会関東地方会学術集会
第 54 回救急隊員学術研究会 (予定)

会期：2017 年 (平成 29 年) 2 月 3 日 (金) 第 54 回救急隊員学術研究会
同 2 月 4 日 (土) 第 67 回日本救急医学会関東地方会

会場：栃木県総合文化センター
〒320-0033 栃木県宇都宮市本町 1-8

会長：小野 一之 (獨協医科大学 救急医学)

運営：(株)協同コンベンションサービス

〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880
獨協医科大学 救急医学 内
TEL：0282-86-1111

日本救急医学会関東地方会 2015年度決算報告書
(2015年1月1日～2015年12月31日)

【収入の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
会費収入	6,500,000	6,460,000	△ 40,000	幹事：10,000円・一般：5,000円
当年度・過年度収入		6,425,000		
前受会費収入		35,000		
雑収入	500,200	340,460	△ 159,740	
広告掲載料	300,000	100,000	△ 200,000	36巻2号
銀行預金利息	200	460	260	
地方会補助金	200,000	200,000	0	日本救急医学会
その他	0	40,000	40,000	別刷代
収入合計	7,000,200	6,800,460	△ 199,740	

【支出の部】

科目	予算	決算	予算比	備考
事業費	7,170,000	6,733,434	436,566	
刊行費(発送費を含む)	3,500,000	3,717,924	△ 217,924	35巻2号製作費(2014年12月発刊), 発送費
地方会補助費	2,200,000	2,200,000	0	日本医科大学
会議費	500,000	217,963	282,037	
常任幹事会		161,198		年2回開催
編集委員会		0		年1回開催
会計監査		972		
看護部会運営委員会		45,425		年1回開催
その他		10,368		学術総会時開催委員会諸経費
交通費	300,000	98,035	201,965	
常任幹事会		47,000		
編集委員会		23,000		
事務局		8,035		学術総会
会計監査		4,000		
看護部会運営委員会		16,000		
印刷費	200,000	180,484	19,516	事務局コピー代
ホームページ運営費	270,000	269,028	972	21,000円×12カ月+ドメイン管理費
SOS-KANTO 2012	200,000	50,000	150,000	
会議費		0		
交通費		0		
データ処理費		50,000		
事務費	1,661,600	1,726,575	△ 64,975	
通信費	300,000	357,676	△ 57,676	
切手代		47,900		
宅配便代		41,582		
その他発送費		268,194		
業務委託費	1,101,600	1,101,600	0	委託先：(株)へるす出版事業部
消耗品費	250,000	253,148	△ 3,148	
振込手数料	10,000	14,151	△ 4,151	
予備費	50,000	0	50,000	
支出合計	8,881,600	8,460,009	421,591	
収支	-1,881,400	-1,659,549		
前年度(2014年)繰越金	12,111,036	12,111,036		
次年度(2016年)繰越金	10,229,636	10,451,487		

銀行口座残高	¥376,943
郵便口座残高	¥10,074,544
小口現金残高	¥0
合計	¥10,451,487


監査報告書

日本救急医学会関東地方会の2015年度(2015年1月1日～2015年12月31日)における収支計算書、およびそれに付随する諸帳簿について必要な監査手続きを実施した結果、2015年度の経営状況を適正に表現しており、かつ会計手続きに不正のないことを認める。

以上

2016年 1月 12日

日本救急医学会関東地方会

監事 坂本哲也 

監事 山口芳裕 

日本救急医学会関東地方会 2016年度予算(案)
(2016年1月1日～2016年12月31日)

【収入の部】

科目	2015年度予算	2015年度決算	2016年度予算
会費収入	6,500,000	6,460,000	6,500,000
雑収入			
広告掲載料	300,000	100,000	300,000
銀行預金利息	200	460	200
補助金	200,000	200,000	200,000
その他	0	40,000	35,000
収入合計	7,000,200	6,800,460	7,035,200

【支出の部】

科目	2015年度予算	2015年度決算	2016年度予算
事業費			
刊行費(発送費を含む)	3,500,000	3,717,924	3,700,000
地方会補助費	2,200,000	2,200,000	2,200,000
会議費	500,000	217,963	500,000
交通費	300,000	98,035	300,000
印刷費	200,000	180,484	200,000
ホームページ運営費	270,000	269,028	269,028
SOS-KANTO 2012	200,000	50,000	200,000
事務費			
通信費	300,000	357,676	300,000
業務委託費	1,101,600	1,101,600	1,101,600
消耗品費	250,000	253,148	50,000
振込手数料	10,000	14,151	10,000
予備費	50,000	0	50,000
支出合計	8,881,600	8,460,009	8,880,628
収支	-1,881,400	-1,659,549	-1,845,428
前年度繰越金	12,111,036	12,111,036	10,451,487
次年度繰越金	10,229,636	10,451,487	8,606,059

名誉会員の推戴について

- ・平成 27 年 7 月 30 日常任幹事会承認
- ・日本救急医学会関東地方会会則施行細則第 22 条 2 (3) に従い、承認を得られた候補者

(敬称略 五十音順)

氏名	役員歴	所属先
有賀 徹	平成 16 年 第 54 回会長	昭和大学医学部 救急医学
堀 進悟	平成19～22年 常任幹事 平成24年 第62回会長 平成 22～25 年 常任幹事長	慶應義塾大学医学部 救急医学

日本救急医学会関東地方会会則 (抜粋)

第 3 章 会員

(構成)

第 5 条 本会は、次の会員によって構成する。

- (2) 名誉会員：本会の発展に特に功労のあった者で、別に定める細則により推薦され、承認された者

日本救急医学会関東地方会会則施行細則 (抜粋)

第 5 章 名誉会員

第 21 条 名誉会員は、常任幹事が推薦し、幹事会の承認を要する。

第 22 条 名誉会員は、幹事会に出席し、意見を述べることができるが、議決に加わることは出来ない。

2 名誉会員の推戴要件は、以下の通りとする。

- (1) 役員経験者であること
- (2) 65 歳以上であること
- (3) 本人に名誉会員となる意思があること

名誉会員名簿

饗場 庄一	荒木 駿二	上田 守三	上松瀬 勝男
小林 國男	佐々木 仁也	島崎 修次	杉山 貢
鈴木 忠	高橋 愛樹	中江 純夫	中野 達也
平澤 博之	前川 和彦	松田 博青	茂木 正壽
矢崎 誠治	山本 保博	相川 直樹	小池 荘介
林 成之	辺見 弘	山中 郁男	芦川 和高
大和田 隆	野口 照義	山本 修三	石田 清
市来寄 潔	梅園 明	葛西 猛	黒川 顯
都築 正和	中田 義隆	原口 義座	大橋 教良
相馬 一亥	長尾 建	益子 邦洋	

名誉会員のご逝去 1名 渡辺 晃、針谷 英世

(推戴順敬称略)

新規常設委員会設置について

1. 多施設研究検討委員会（構成：医師部会・看護部会・救急隊員部会）

SOS-KANTO2012 の終了に伴い、次期他施設研究や地域に特化した研究のアイデアを募り、それをコーディネートしていく委員会を設置することが決定された。（平成 27 年度第 1 回常任幹事会）

今までの SOS-KANTO を包括する形で多施設研究の取り組みを進めていく委員会として設置を進めていく。具体的な内容、メンバー等については平成 28 年度幹事会にて改選となる新常任幹事会に委ねるとされた。（平成 28 年度第 1 回常任幹事会）

2. 関東地方災害医療対応検討委員会（構成：医師部会・看護部会・救急隊員部会）

【目的】 関東地方の被災地域内災害医療対応の検討を行うこと。
首都直下地震等、関東地方が被災する大災害を想定した関連諸機関・団体の対応計画の骨子を共有し、連携の強化を図ることが不可欠です。本委員会は、様々な立場や視点からの対応計画の骨子の共有と連携強化を目指すものです。

【経緯・協議内容等】

「関東地方災害医療対応検討委員会」については「関東地方災害医療コーディネーター連絡会議」とし、前身となる委員会を設置した上で方向性などについて議論を深める必要があるとされた。（平成 26 年度第 1 回常任幹事会）

森村常任幹事長から、関東圏では 2015 年 3 月頃に厚生労働省主催で災害医療コーディネーター研修の開催が予定されていることが紹介され、委員会の立ち上げはそれ以降改めて検討していくとされた。（平成 26 年第 2 回常任幹事会）

相互の情報交換・連携を図ることを目的とし、各県単位の災害医療コーディネーターを集め、それに対し当会が会場や交通費等を提供する方向性で企画を進めていくとされた。メンバーについては九都県市の枠組み等を参考とする。（平成 27 年第 2 回常任幹事会）

継続審議とし、平成 28 年度幹事会にて改選となる新常任幹事会今後は委ねるとされた。（平成 28 年度第 1 回常任幹事会）